



No. 284	2009. 8.15. 発行	
あごら札幌 連絡先 011-644-2927 細田 谷		

## 《今月の内容》

- \* 64年目の夏 ..... 1~2頁
- \* 個人的経験と裁判員制度（その1） ..... 3頁
- \* 石川一雄さんのこと ..... 4~5頁
- \* 本と暮らす（48） ..... 6~7頁
- \* 情報 ..... 8頁

通信購読料(年間)1200円 郵便振替 02710-3-570あごら札幌

## 64年目の夏が来て

谷百合子

今年も敗戦から64年目の夏を迎えた。私は1945年生まれである。

広島、長崎の原爆投下記念日が巡ってくる度に自分の年齢を確認することになり、1945年生まれという重みが、私の生き方に少なからずの比重を占めるようになったのではないかと思う。敗戦の混乱の中、私の誕生が、両親にとって、初めての子供という感動だけではなく明日をどう生きるか途方に暮れていた2人の生きる希望につながって行ったことも、子供ながらに何か感じて育ってきた。

同年代の人たちが皆同じとは思わないが、私個人として言えるのは、戦争に対する悲しみや怒りが理屈抜きで湧き上るのは、1945年生まれの重い背景があるからではないかと受け止めている。

### 2009年に生きる私たちの平和

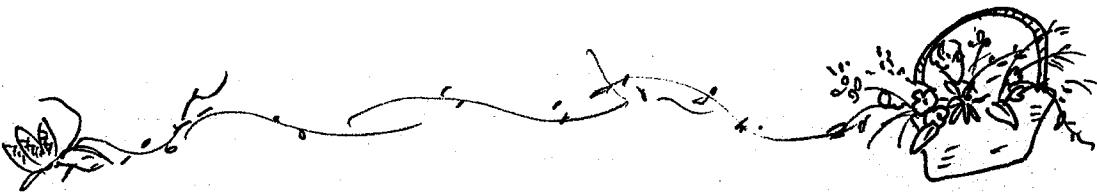
私たちは日々を生きねばならない。今日のパンを得るために労働しお金のために働く。札幌にいるホームレスの人が倒れようと、イラクの人が何人殺されようと毎日毎日そんなことばかり考えてはいられない。悲しいけれどそれが現実であるし、人間の弱さである。そのこともしっかりと心に刻んで、その上で何ができるかである。

### 知ることから始めよう

人は嫌なことからは目をそらす傾向がある。地球上は目をそらしたいことばかり。私もできれば悲しいこと、むごいことは見たたくない。しかし1945年生まれの責任が重い扉を押し開ける。私の周りには神の心を宿しているのではないかと思う活動家仲間がたくさん行動しており、ひ弱な私の背中を押してくれる。彼らからの情報がマスコミよりも確実に真実を伝えてくれる。（勿論マスコミにも良心のペニを持つ人は沢山いる）

### 何を信じ何を疑うのか

1番大切で1番難しいのは自分の頭で考えて自分の意見を持つことである。それには何よりも情報が大事。私なりのホットニュースを以下記載。



### ● オバマ大統領のプラハ発言の足を引っ張るのは日本政府！

核廃絶に向けてのオバマ発言は、永遠に期限のない核不拡散条約（NPT）に1石を投じた。冷戦時代の条約であり NPT の内容は不備な点が沢山あり目を離せないこともあるが、広島市長も原爆慰靈祭の日に、日本政府が積極的にプラハ発言を支持し NPT に取り組むように強い口調でのべていた。憲法9条を堅持するようにとの発言もあり知事の発言として評価する。

一方の麻生さんはと言えば、八月九日、先制不使用如何なものかの作文を公表した。

「検証方法のない考え方で日本の安全を確保出来ない。」つまりは反対なのだ。

しかし、求められているのは「敵国」の先制不使用宣言ではない。日本の同盟国であり、圧倒的な通常兵器を併せ持つ米国の先制不使用宣言なのである。核兵器の役割を他国による核使用の抑止に限る事により、分単位で発射できるミサイルの警戒態勢の解除や、大幅削減を可能にしようという話なのである。意図的に混乱したのか本当に無知なのかそれとも核兵器産業の死の商人が動いているのか、夏のミステリー？

「核兵器を憂慮する科学者の会」世界中に存在するが今回の日本のうごきを心配している。9月か10月に米国の内容が決定するので動きが注目される。マスコミが取り上げるかが懸念される。

### ● 劣化ウラン反対と言うけれど・・・

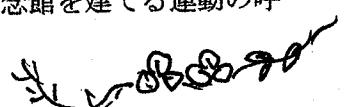
イラクに雨のように注いだ劣化ウランの度に私は意見を述べることになる。

劣化ウランは原発の再処理から生じる。それは電力会社にとってはただの危ないゴミであるが、戦争屋にとってはリサイクルのたまもので、劣化ウラン弾に生まれ変わる。

北海道電力の株主総会で質問したことがある。「当社の劣化ウランはどこに行き、いくらの価格つき、イラクの人々を殺す劣化ウラン弾になってはいないという確証はあるのか？」「アメリカの核管理会社に行っておりますが、あとは核秘密事項でございまして・・・」このような口実を与えてはならないのである。劣化ウランに憂慮するのならばまず原発を止めなければならない。劣化ウラン禁止、原発の平和利用賛成の共産党は選挙でオバ支持を言えるのだろうか。頑張ってもらいたい党の一つとして私は憂慮している。

### ● 沖縄の平和授業ツアー20日から25日まで

無防備平和の本の編集者でもあり「基地はいらない全国女たちのネットワーク」の仲間でもある加藤さんから「ハーフセンチュリー」のことを知られ、沖縄に思いを寄せるものとして講演会ツアーを引き受けた。講師は牛島貞光さん。世田谷区の小学校の教師。祖父は沖縄戦当時、陸軍第32軍司令官の牛島中将である。幼いころ家族と靖国参拝をしていたが疑問に感じ沖縄を訪れる。家族としての祖父と軍人としての祖父をみつめる行程が始まりそれが平和授業に至った。祖父は何故住民犠牲者が南部撤退を支持したのか。多数の子供たちが首里決戦を授業で選択すること。「沖縄の子供たちは、身近に戦争の傷が残り、祖父母を苦しめた沖縄線がある。あえて結論はつけない。学校という場で、皆で考えることが大事だと思う。それはわたしも同じです。」と牛島さんは語る。プランはもう一つあって、沖縄の宮森小学校に米軍戦闘機が墜落して死者17名（児童11名）負傷者212名を出し、3教室、公民館、民家17全焼等の惨事から50年になる。基地があるからこそその惨事を忘れないために沖縄に記念館を建てる運動の呼びかけとして。「ハーフセンチュリー」の授業も公開する。



## 個人的経験と裁判員制度（その1）

K. S

7月中旬、トムラウシ山や美瑛岳で本州からの登山客10人が死亡する遭難事件が発生したが、私も5月の連休に遭難しかけた。

4月20日、大学の山岳会OBのKさんから「連休に一緒に登る予定だった人の都合がつかなくなっている。冬山の装備は全部こちらで揃えるので簡単な山だから一緒に登らないか」と何年かぶりに電話があった。（因みに5年前一緒に登った「惨行」の感想をあごらNo.253に書いている。）もう1人女性（Sさん）を誘ったが固辞され、結局2人でかんじきで登ることになった。計画書を道警、山岳会に提出し（Sさんにもメールで送った）、装備や地図を買い揃え自分なりにルートを研究した。ところが、出発日の前日の夜になって「先日降った雪の関係で山を変え、縦走でなく1泊2日と日帰りにする」との電話がありしかもかんじきでなくスキーにすること。私はスキーが苦手なので、スキー山行ならば断っていたのだが既に年休も申請済みだったので、「天塩岳はやさしい山だし下山はつぼ足で大丈夫」との言葉を信じ山岳会とSさんにはメールで変更を伝えた。

勤務終了後、現地に向かう自動車の中で道警に山行中止の電話を入れ、計画書は現地の駐在に出すことになったが、「うっかり駐在を通り過ぎた」と告げられ、無届登山の形になってしまった。（計画書は私にも渡されず、この日は寝袋で車中泊。）

翌朝、浮島峠から林道までスキーで歩き、浮島湿原で縮小した地図を1枚渡され、「帰りはこっちの三笠山から降りる」と手で方向を示された。（ルートも何も記載されておらず、地図には三笠山ではなく「笠山」となっていた。）この日は約8時間歩き、1248メートルのピーク近くで雪壁を作りテントを張った。夕食時、持参するよう指示されていた棒ラーメンとチューハイと行動食を入れた袋が見当たらず、非常食しかないことに気がついた。Kさんから手酷く罵られ、「こんなこともあろうかと持ってきたんだ」とフリーズドライ食品を夕食としてもらった。（Kさんはこの他にも食品をいっぱい持ってきていた。）

次の日、5時過ぎに出発し1557.6メートルの山頂までは比較的順調に到達することができた。山頂から降りたところで、山小屋の上にあるピークにまだ行ったことがないから登るといわれ、疲れたので分岐で待っているとの私の主張は押し切られ登るはめになった。案の定、私は遅れがちとなり、テン場に着いたのは15時30分だった。「疲れてしまったのでもう1泊して降りましょう」との提案は入れられず、どうしても今日笠山を通って下山するんだと急き立てられ、テントを撤収して出発したのが16時だった。

笠山のピークを過ぎ、スキーをザックにつけてもらって下山が始まった。「落ちたら死ぬぞ」といわれた右側の切り立った崖は湾曲しており、左側の雪庇は足元にひびが入っていた。歩こうとする尖った尾根には結構大きな木が生えていてどこをどうやって降りてよいのかわからない。「戻りましょう」との私の声は無視され、「先に降りろ」といわれたが、絶望的な状況なので「降りりません」と言い張り、先に歩いてもらった。スキーを木にひっかけたり、時々雪穴にはまりつつ（これは体重のせいもある）、地獄の行軍が続いた。最初のうちは、「穴にはりました」「木にひっかかりました」と声をかけていたが、一度も助けに戻ってもらったことがなく、途中から諦めて声をかけるのをやめた。反対に、木の根もとに落ち込んだKさんからの「ザックを置いて助けにこい」との大聲が聞こえたので、駆けつけて引っ張りあげたことはあった。

ザックへのスキー板の付け方が悪く、急斜面でスキーが引っかかり、私自身が落ちてしまいそうになるので付け直してもらったが、今度はザックがぐらぐらになっており危なくて歩けないので、ザックを下ろし緩められていたザックの紐を直した。（何でこんな危険なことをするのかわけがわからなかつた。）「スキーを流したら取りに降りてもらうからな」といわれたが、自分が落ちたら命がないか大ケガをするし、スキーが落ちたら二度とその板にお目にかかるのは明らかだった。

※ 今回、裁判員制度の話にたどり着けなかった・・・。



## ◆ 石川一雄さんのこと ◆

T

最近、足利事件の再審開始についてニュースで大きく取り上げられましたが、皆さま、「狹山事件」というのをご存知でしょうか・・・？

私は名前だけ聞いたことがあり、その内容についてはよく知りませんでした。

46年前の1963年、埼玉県狹山市で16歳の女子高生が下校途中に誘拐され、犯人からの身代金要求後、遺体で発見されました。隣町に住む石川一雄さんが犯人として起訴され、無期懲役刑確定。1994年に仮出獄。今まで二度再審請求をしていますが、いずれも斥けられています。

昨年4月に札幌で石川さんの講演会がありました。冤罪事件というのは時々耳にするけれど、私は具体的にはよく知りませんでした。冤罪事件の被告になった人の話を直接聞くのは、勿論初めてでした。

驚きました。テレビや映画のサスペンスドラマで、最先端の科学技術を駆使した緻密な捜査の様子がたくさん描かれています。それで、ほぼ確実に犯人を特定できる証拠が積み重ねられているものと思っていた。でも、この狹山事件では科学的な捜査なんてありません。40年以上前のこととは言っても、あまりに非科学的なのです。裁判の審理も非合理的。裁判員制度がスタートしましたが、法律にヘタにかぶれない一般市民がこの事件の担当裁判官になったら、誰でも「この人を有罪にはできない」という結論を出すのではないかと思いました。

疑問点はたくさんあるのですが、特に大きなものを二つ紹介します。

(1)一つは、犯人が被害者宅に置いた脅迫状（狹山事件では、後述するように、出された諸々の物的証拠にねつ造の疑いが大きいため、事実上、この脅迫状が犯人に結びつく唯一の客観的証拠）。

まず、筆跡が素人目から見ても石川さんの筆跡とは違う。当時警察庁の筆跡鑑定で「同一人であることが濃厚」とされました（警察の鑑定でも「同一人である」とまで言るのははばかられたのでしょうか）、当時の筆跡鑑定はとても杜撰なものでした。第一審の裁判官は「筆跡の違いは書き手の置かれた環境や心理的立場の違いによって生じたものだから、筆跡が違うからと言って書き手が違うとは限らない」という理屈を述べて、筆跡の違いを無視しました。以前、狹山事件を取り上げた番組でキャスターをしていた鳥越俊太郎氏は「こんなことを言い出したら、筆跡鑑定という方法自体をやる意味がない。この裁判官は、はっきり言って、阿呆です」と言っています。

次に、石川さんは、極貧の生活の中、幼い頃から畠仕事や農家の子守奉公に出されたりしたためろくに学校に行けず、小学校も5年生までしか行ていません。石川さんのご家族もそうだったのですが、石川さん自身も、字を読めなかっし書けませんでした。脅迫状は、宛て字だらけで一見稚拙に見えますが、漢字がふんだんに使われているし、文章自体は筋の通った文意の明瞭なものとなっています。でも、当時の石川さんは漢字どころかひらがなもろくに書けず、まして、相手に自分の要求・用件を明確に伝える文章を作成することなど無理だったのです。石川さんの家族をはじめ周りの人は皆それを知っていました。逮捕当時石川さんが働いていた工務店の経営者は「こんなもの（脅迫状）あいつに書けるはずがない。漢字なんて知らないんだから」と証言しています。それでも、宛て字だらけのため、捜査官たちは「学力のない者が書いた」と思い込み、石川さんがこの程度の脅迫状なら書けるだろうと決め付けました。

(2)二つ目は、突如見つかった万年筆。

石川さんを逮捕後、捜査当局は石川家の家宅捜索を2度行っていますが、その結果、犯罪に結びつく物的証拠は得られませんでした。そして、逮捕から約一ヶ月も経ってから3度目の家宅捜索を行う

のですが、そのとき初めて、突然、被害者のものとされる万年筆が発見されます。その万年筆は、石川家の勝手口を入ってすぐの、茶の間に続く入り口の鴨居にポツンと置かれていたのです。それまで捜査当局は、井戸の底から床下からトイレの中まで、徹底した捜索を2度もしているのに（ちなみに、想像に難くありませんが、当時の石川家は、捜索をするにも長時間を要しないような、パラック建ての小さな家でした）、勝手口に入ったらすぐ眼の前にある鴨居の上に載っている物を発見できなかったというのです。これについて第一審の裁判官は、「簡単に発見できる所に置いてある物だからこそ、かえって盲点となり見落とすこともある」というよく分からぬ理屈をつけ、証拠としています。ちなみに、この万年筆からも脅迫状からも、どの物的証拠からも（被害者の遺体に巻きついた紐等）石川さんの指紋は検出されていません。

被害者の遺体が置かれていた場所は、被害者宅の建つ比較的豊かな農家の居住地域と、そこに隣接する被差別部落地域との、境目になる辺りでした。事件当夜の犯人の行動・足取りから犯人は地元の事情に詳しい者と考えていた捜査当局は、被差別部落地域の住人とめぼしをつけて捜査し始め、事件発生から約20日後、その地区に住んでいた石川さんが逮捕されました。A地区とB地区の境目に置かれていたなら、犯人がB地区の住人の可能性もあるけれど、A地区の住人の可能性もあります。けれど、捜査当局は、ごく早い段階から、被害者宅のある地域の住人の方に関心を向けることは止め、専ら被差別部落の方だけに集中的に捜査を切り替えたのです。これは偏見があったと言わなくても仕方がありません。

狭山事件の発生する約一ヶ月前、東京では「吉澤ちゃん事件」があり、警察は犯人を取り逃がしていました。狭山事件でも同様に、身代金受け渡し場所に犯人が現れていたのに張り込んでいた警察は犯人を取り逃し、被害者は遺体で発見されました。警察への非難が急速に強まっていた時期で、この事件で早急に犯人を捕まえなければならないという焦りが警察にはありました。

自白を強いる長時間の過酷な取調べにもずっと犯行を否認し続けていた石川さんは、逮捕から約1ヵ月後、犯人が身代金を持ってくるよう指定した現場の足跡と石川さんの兄六郎さんの地下足袋の跡が一致した、と取調べ官に言われました（後の鑑定では一致しないとされた）。つまり、兄が犯人だと思い込まれたのです。取調べ官は兄の逮捕をちらつかせました。当時、お兄さんが石川家の大黒柱でした。お兄さんが刑務所に行くことになれば、石川さん一家は路頭に迷うことになります。兄を刑務所に入れるわけにはいかない、と思った石川さんは、自分が代わりに刑務所に入ることを選び、言われる通り自白調書を書きました。石川さんが、兄に事件当夜のアリバイがあることを知らされたのは、第一審の死刑判決が出た後でした。

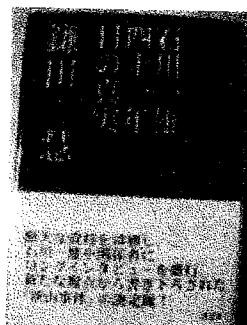
服役中、石川さんのことを気にかけてくれる刑務官がいました。彼は石川さんに字を教え、石川さんは毎日練習し続けました。刑務所の中で初めて石川さんは「無実」という字を覚えました。

石川さんの夢は、中学校に行くこと。中学校に行けなかつたので中学校の勉強がしたい、とおっしゃっていました。

石川さんは現在、3度目の再審請求をしています。

24歳で逮捕された石川さんは、今年70歳です。

- \* 鎌田慧さんの、事件経過を一つ一つ丹念に検証した力作 ⇒  
是非ご一読ください。
- \* 狹山事件のサイト <http://www.sayama-jiken.com/>
- \* テレビ朝日「ザ・スクープ」のサイトでは動画配信もあります（2005年2月13日放送分）。



# 本と暮らす

(48) 『身体にきく「体癖」を活かす整体法』 片山洋次郎 著 文藝春秋 刊  
『新版ひとりでできる こころの手あて』 八巻 香織 著 新水社 刊

つい最近、yogaを始めました。それについては、またまた沢山エピソードがあるけれど、それは次の機会ということで、今回はyogaを始めるきっかけになつた2冊の本を紹介します。

回復作業がすすむにつれて「心身一如」ということが改めて身にしみてきたんだわね。この前「ACで援助職」というダブル・クローズド

(注1) の自助グループの合宿ミーティングに参加しました。前回(今年2月)は、新しい出会いにかなりコーエンしてしまい、過激な夜更かしをしたのと、自分の力量(当時)以上のケースをいっぺんに抱えてしまつて'08年12月頃から続いていた「二次受傷」(注2)のお手当をしきれていなかつたのとで、心身ともに参つてしまつたのだ。具体的にいうと、心理的には「もう、あのヘビーな話は聴きたくない!」今週はとてもじゃないけど面接できないわ」という状況に追い込まれ、身体的には1種類目の抗生物質が効かず2つめを追加して、ようやく激しい痰・咳・発熱が収まるくらいの気管支炎になつて、4日半も仕事を休んでしまつたんだよね。こんな状況はほんと、約10年間なかつたことです。その教訓から、今回は合宿中の夜更かしを控えて、帰宅してから仮眠もとり、夜もたつぶり寝たのです。

そうしたら、今回は1日でフルコースの風邪を経過して、あとはピンピンに元気になつた。自分でもびっくりです。以下がフルコースのなまみ。

日曜日の夜、寝るときに「あれ、何となく、鼻がぐずぐずしているなあ」と思つて寝た。暦が変わつた月曜日の夜中1時半くらいに強烈な頭痛で目覚めた。ズキンズキンと響く頭痛です。どうにも辛いので、鎮痛剤を1錠飲んだ。

「あまり楽にならないなあ・・・」と思って横になつてたけど、痛くて眠れない。約1時間半ズキズキのまま起きているうちに、いろんな考えがモクモクと雲のように湧いてきて、制御不能になつた。こういう「考えがどんどんどん湧いてきて止まらない状態」のことを専門用語では「自生思考」というけれど、これってかなりヤバイ状態なんだよね。で、リスペダール2mg(注3)を内服したら、40分くらいで効いてきて、自生思考の症状はなくなつた。「や

れやれ」と眠りについたのだけれど・・・。朝6時半、何とか眼は覚めた。必死で朝食も食べた。でも、どうにも体がだるくて、食後の一休みのつもりで横になつたソファーから起きられない。刻々と迫る出勤時刻・・・「こりや、だめだ」と職場にTELして休むことにした。ベッドに入る前から何だかゾクゾクと悪寒がしていたのが、タオルケットを被つたらはつきりと発熱てきて関節痛まで出てきた。「ありや、熱が出てきた」と思いながら、引きずり込まれるように寝ていたら、約3時間してびつしょりと汗をかいて解熱して、眼が覚めた。なんだか覚えていないけれど、たくさん夢を見た感じもあつた。ま、覚えているような夢はなかつたので、これは気にしないでスルーしました。ぐつしょり濡れたパジャマとタオルケットなどを取り替え、昼ご飯を食べて、また寝た。また、悪寒・発熱→発汗・解熱して眼が覚めた。今度は熱のピークが午前中よりも低い。夕食を食べて、また寝た。3回目の発熱→解熱。午前・午後よりもさらに熱のピークは低くなつてた。そして、火曜日の朝! 気分爽快、体も爽快で眼が覚めたのです。

これぐらい多彩な症状があつたら、以前なら軽快するのにだいたい2日半から3日はかかつたと思う。それが本当に1日で済んでしまつて、火曜日からは逆に「風邪」を引くまえよりも元気になつたんだよね。周囲からは心配されたのですが、もりもり元気に仕事して、アフター5も充実しております。回復作業で悪戦苦闘するなかで、いろいろとチャレンジするうちにお手当の仕方・体のゆるめ方が上手になつたからだ、としか、考えようがない。

これがもつと上手になつたらいいな、ということで読んでみたのが上記の2冊なのだ。どちらも、それぞれに収穫がありました。

『身体にきく』の方は、なんと言つても自分の体癖がわかるようになつたのが、大きな収穫でした。「自分の体癖のおおまかな目安をつけてみましょう」というチャート式のテストがあつて、これが実際に良くできているのだ。野口先生の分類のもとになつた各体癖の特徴をよく捕まえていて、それを簡単なテストで判別できるように作つてある。今のつれあいは開閉型9

種（ほぼ確定）で、私は前後型6種がいちばん近いようです。これは野口晴哉先生の本（といつても私が読んだのは全集じゃないけどさ）を読んでいただけでは、きちんと分からなかつた。「体癖」というキーワードについていえば、この本の著者の片山さんは「体癖は活かすもの」という発想で、これも「体癖を修正する」という野口先生の発想（少なくとも『整体入門』を書いた時点では、そういう発想だつたことが明らかで各体癖の修正体操を写真つきで紹介してある）よりも一歩進んだ発想だと思います。

それから、第2章の「身体の響きを取り戻す」が現時点での私には、とっても役に立つた。第3章は、ちょっと現時点での私には高度すぎて、まだまだうまく活用できない。第4章については、評価保留。第5章「病の人とどう接するか～家族介護について」・終章「ふれる・響く力」も、介護のことや生きること・死ぬことを考えるうえで、とても参考になることがてんこ盛りで書いてあります。

『こころの手あて』は、実はだいぶ前に購入していたけれど、きちんと読んでいなかった。この本の魅力はなんといっても、くろちゃんマンガです。「マンガ」より易しい言葉で表現された解説がついているイラストの方がいいかな？これが、ほんといいのだ！先日、アルコール依存症患者さんの学習会をしたときに著者にお願いして快諾をいただき、学習会の資料にくろちゃんマンガを引用させてもらつたくらい、私は気に入っています。くろちゃんマンガを引用するために、わざわざパワーポイントでレジュメを作成して、くろちゃんマンガを本からスキャンしてPCに取り込んでもらつて（まさ サンキュ！）、それを1枚1枚スライドに貼り付ける作業をしたくらい、私は気に入っています。ネコみたいなイヌであるくろちゃんの表情・しぐさの豊かさ、テーマを解説するたとえの面白さは、実物をみてもらわないと分からぬだろうなあ・・・。

さらに、この本は、構成がユニークでおもしろい。どの章も「こころの絵本」（くろちゃんマンガと私たちが呼んでいるものは正式には～というかこの本ではこういうタイトルがついている）→その章のテーマのだいじな部分を文章でさらに解説したもの いくつか→「Letter Drop」という題がついた読者からの手紙（主に体験談）→「Work Sheet」という題がついたワーク→「サワンの処方箋」という題がついた補足 という構成になっています。「こころの絵本」は、概念としてはかなり難しい内容を

ここまで直感的にわかりやすく表現できるんだね、という見本ですね。そして「ひとりでできる こころの手あて」という題名どおりに適切なワークがついている。ワークっていうのは、ワークブックのワーク、です。例えば、こんな感じ。「問題を言葉にするレッスン」というワークでは見開き2ページでこういう質問が並んでいて、空欄に書き込むようになっています。「私の問題は具体的に言うとどんなことですか」「それは私の一日のどのくらいの時間に影響していますか。それはどのような場面ですか」「その問題から私が解放されるのは、どんな時ですか。そのとき私は何をしていますか」

「私はその問題についてだれかに話をしましたか。それはだれですか」「（もし、誰かに話したならば）話をすることで気づいたこと、人の話を聞くことでわかつたことを書いてみましょう」「その問題は私にとって、どんな役に立つてきましたか」「その問題をどのようにして解決したいと思いますか」そして「発見したこと」という欄があつて「これはテストではありません。書けないことがあってもOKです。書けないことがあることを知るのも発見のひとつです。問題解決とは問題を消すことではなく、問題とのつきあい方を変えて、より良い生き方を見つけること。書くことがその力となります」と締めくくっています。日本人はワークという作業をしたがらないけど、この本はすごく広い年齢層に反響があつたらしい。

表紙のイラストや装丁から内容の表現まで、とっても柔らかくて平易だけれど、なまみは重厚な2冊です。  
(まみ)

**注1：**クローズド・ミーティングというのは「その条件を満たした当事者だけが参加できるミーティング」のこと。たとえば、アルコール依存症の本人だけ（AA）とかアルコール依存症者の家族・友人のみ（アラノン）とか。ダブル・クローズドというのは、参加する条件が2つあるということ。

**注2：**二次受傷というのは、心的外傷を受けたクライアントの悲惨な話をカウンセラーが聴くことで、カウンセラーもクライアントと同様な恐怖・怒り・悔めさなどの感情を体験すること。

**注3：**リスペダールというのは主に統合失調症に使う強力なトランキライザーで、2mgというのは、統合失調症とかの病気でないひとが服んだらバタンキューでこんこんと眠る量です。なんでそんな薬が自宅にあるのかって？そりやあ、あなた、回復作業の途中でどえらいヤマを越していく時期、手元に強力なトランキライザーがなかったために、救急外来でトランキライザーの注射をしてもらった経験があるからですよ。タクシーをいちいち飛ばすのは大変だからね、非常用に主治医から処方してもらったのよ。

# 情報

## 沖縄・宮森小学校・米軍ジェット戦闘機 墜落事件を 忘れない 牛島貞光さん講演

8月20日7時	みんたる	北14西3	ドリンク付き 1000円
8月21日6時30分	苫小牧市民会館		
8月22日1時30分	北海道クリスチヤンセンター	(北7西6)	500円
8月23日1時30分	石狩	北星学園女子高	8月24日・25日朝
8月24日6時	恵庭市民会館	石狩翔陽高校全学年	1時30分
8月25日1時30分	野幌公民館	連絡 664-0632	谷(全日程)

## 性教育学習会

- 全国セミナー報告
- ①個人メディアインターネットを使っての性教育
  - ②ミニケーション名人になろう(つながる言葉・たちきる言葉)
  - ③模擬授業、幼児の性教育ってなに?なぜやるの?実践報告

9月5日(土) 6時10分~20時10分

札幌市男女参画センター 研究室1 (北8西3エルプラザ)  
500円 (773-1745まで)

## 2009ピースフェスタ IN 札幌

私たち9・11を忘れない!

9月12日(土)

開場12時開演12時30分

ターミナルごとにバス (ごとにバスターミナル地下鉄直結)

林屋 とんでん平さん(落語) 中島岳志さん講演 連絡 08018987037

韓国への報告(栄養パンがつなぐ南北の交流)

七尾

朗読 {多喜二の死} 三浦綾子 {母} より 長谷川京子さん

参加費1000円その他、展示屋ブース(軽食、飲み物など多数あり)

中学生。高校生500円

地震と台風と雷が1度にやってきた!これに浜岡の老朽原発事故が加わったらと思うと真夏の怪談嘶どころではない。1番怖い思いをしているのは原発の当事者でしょう!しかし地震測定機の場所を教えないなどフェアーではない沖縄の思いやり予算は27年間で1197億円以上に!今回あらたな支援はその倍!気絶しそう!

あごら札幌を開設した山口里子さんにお会いした。キリスト教が1部の文字が書ける男たちのものになってきたことを分かりやすく講演。里子さんはマルチングルターかも。いやいやすでにかれを超えていた!

百合子